

ショップはどうして物語

全国をマタにかけチューニングショップの歴史を探るこのコーナー、今月は大阪のトライアルだ。ホナ行きまっせえ〜!



第4回 東大阪市

TECHNICAL
SERVICE & RACING
DEVELOPMENT

トライアルの巻

チャレンジ精神たつぷりのトライアルが今月のターゲット

「ショップはどうして物語」も4回目を迎え、関西地区への出陣だ。そこで歴史を探るには「トライアル」だ。トライアルといえは2年前に国内チューニングカー初の300km/hオーバーを達成したことで記憶に新しいところだ。前置きはこれのぐらにしてそもそもはというと……

今から10年前に遡ることになる。自動車用品の販売をしていた牧原さんのお兄さんと牧原さん、チーフメカニックの有馬さんたちで「チャレンジ」というショップを開いたところから始まる。そこから話が飛んで6年後の57年に牧原さんと有馬さんが独立するカタチで「トライアル」を東大阪市に起した。ではなぜこの名前になったのか? それはチャレンジ出身であることに端を発している。チャレンジとは挑戦とか試合を申し込むという意味がある。そ



▲通称ダベリಂಗルーム。コーヒーなんかサービスしてくれちゃうのだ

んはいう。割と楽天的というか、楽しく、家族的というのがお店の方針である。そんな雰囲気はまずショールームの中からもうかがえる。昨年完成したばかりだが、白い建物はまるで喫茶店のようだ。中に入るとカウンタがあり、女の子がコーヒーをサービスしてくれちゃうのだ。そのために通って来る人もいる? かどうかは定かではないが、人間尊重のレイアウトになっていて、ホイールやパーツなどは小じんまりと置かれている。

工場はその奥に位置するのだが、かなりの広さ。広いだけではなく、天井が10m以上もあり、なんとなく体育館にしているような印象を受けてしまう。その中には、シャーシダイナモ、エンジンアナライザーといったチューンに欠かせないものも収まっている。シャーシダイナモといえは、駆動輪での出力を計測するものだが、トライアルではこんなことも……とにかくユニークなのだ。

の言葉に近いものとして「トライアル(試み、試行)」が選ばれた。さらに、お店全体として「なんでもやってみよう」「意気込み」ということも盛り込まれている。サブネームにテクニカルサービス&レーシングデベロップメントとあるが、これはストリートへの技術供給、そしてこれから行ないたいとするレース活動を意味するものだ。そもそも、店長の牧原さんは二輪からこの世界に入った人で、街角でチューニングカーを見かけ、目撃したということだ。それがやはり今から10年前のことである。今までの苦労は? と聞いてみたが、「苦労はつきもの」と軽く牧原さん